

2018年



トンペイ 東北クラブ



第41回 宮城県サッカーリーグ2部成績表

	マリソル松島 SC	東北クラブ	南小泉クラブ	KEMONO in櫻木	七郷クラブ	FC Sendai 2nd	田尻FC
マリソル松島SC		2 - 2 △ 2 - 1 ○	1 - 3 ● 2 - 0 ○	0 - 6 ● 3 - 1 ○	6 - 1 ○ 4 - 1 ○	0 - 11 ● 0 - 2 ●	1 - 1 △ 3 - 3 △
東北クラブ	2 - 2 △ 1 - 2 ●		2 - 3 ○ 3 - 1 ○	0 - 2 ● 0 - 0 △	3 - 1 ○ 2 - 0 ○	0 - 1 ○ 1 - 1 △	6 - 0 ○ 0 - 4 ●
南小泉クラブ	3 - 1 ○ 0 - 2 ●	1 - 3 ●		1 - 4 ● 1 - 3 ●	1 - 2 ○ 3 - 1 ○	0 - 7 ● 0 - 5 ●	0 - 1 ● 2 - 1 ○
KEMONOin櫻木	6 - 0 ○ 1 - 3 ●	2 - 0 ○ 0 - 0 △	4 - 1 ○ 3 - 1 ○		8 - 1 ○ 5 - 1 ○	1 - 2 ● 0 - 2 ●	3 - 0 ○ 1 - 1 △
七郷クラブ	1 - 6 ● 1 - 4 ●	1 - 3 ● 0 - 2 ○	2 - 1 ○ 1 - 3 ●	1 - 8 ● 1 - 5 ●		0 - 12 ● 0 - 6 ○	1 - 2 ● 1 - 4 ○
FC Sendai 2nd	11 - 0 ○ 2 - 0 ○	1 - 0 ○ 1 - 1 △	7 - 0 ○ 5 - 0 ○	2 - 1 ○ 2 - 0 ○	12 - 0 ○ 6 - 0 ○		2 - 1 ○ 3 - 1 ○
田尻FC	1 - 1 △ 3 - 3 △	0 - 6 ● 4 - 0 ○	1 - 0 ○ 1 - 2 ●	0 - 3 ● 1 - 1 △	2 - 1 ○ 4 - 1 ○	1 - 2 ● 1 - 3 ●	

第41回 宮城県サッカーリーグ2部順位表

順位	チーム名	試合数	勝ち	負け	分け	得点	失点	得失点	勝ち点
3	マリソル松島SC	12	5	4	3	24	32	-8	18
4	東北クラブ	12	4	5	3	20	17	3	15
6	南小泉クラブ	12	4	8	0	15	32	-17	12
2	KEMONOin櫻木	12	7	3	2	34	12	22	23
7	七郷クラブ	12	1	11	0	10	56	-46	3
1	FC Sendai 2nd	12	11	0	1	54	4	50	34
5	田尻FC	12	4	5	3	19	23	-4	15

#

2018年 全試合一覧

1	4/8	宮城県リーグ第1節	○	3-1	七郷クラブ	ひとめぼれスタジアム補助競技場
2	4/15	宮城県リーグ第2節	●	0-1	FC SENDAI2	アディダススポーツパーク
3	4/22	宮城県リーグ第3節	○	6-0	田尻FC	アディダススポーツパーク
4	4/29	社会人大会1回戦	●	0-2	リコーインダストリー東北	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
5	5/6	クラブ選手権2回戦	○	11-0	クラブブレジ	アディダススポーツパーク
6	5/20	宮城県リーグ第4節	△	2-2	マリソル松島SC	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
7	6/17	天皇杯1回戦	○	7-3	仙台大原学園	みやぎ生協めぐみ野サッカー場A
8	7/15	クラブ選手権準々決勝	●	1-2	六郷クラブ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
9	7/22	宮城県リーグ第5節	●	0-2	KEMONO IN 楓木	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
10	9/2	宮城県リーグ第6節	●	2-3	南小泉クラブ	松島FBC2
11	9/16	宮城県リーグ第7節	○	2-0	七郷クラブ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
12	9/23	宮城県リーグ第8節	●	1-2	マリソル松島SC	七ヶ浜スタジアム
13	9/30	宮城県リーグ第9節	△	1-1	FC SENDAI2	松島FBC2
14	10/14	宮城県リーグ第10節	●	0-4	田尻FC	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
15	11/4	宮城県リーグ第11節	○	3-1	南小泉クラブ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
16	11/25	天皇杯2回戦	●	0-11	FC.Sendai Univ	ひとめぼれスタジアム補助競技場
17	12/2	宮城県リーグ第12節	△	0-0	KEMONO IN 楓木	ひとめぼれスタジアム補助競技場



2018-06-17(日) 仙台大原学園戦

◆2018年4月8日(日曜日) 宮城県リーグ2部 第1節 対七郷クラブ戦
試合開始:11:00 (40分ハーフ) ひとめぼれ補助競技場グラウンド

【結果】3-1で勝ち。

【得点者】山崎晶平(6分),山崎晶平(19分),山崎晶平(22分)

【アシスト】柴田健太郎(1点目),石川湧己(2点目),残間諒(3点目)

【スタメン】GK:残間諒

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、黒田尚志

MF:黒崎友弘、板垣俊之介、柴田健太郎、白倉俊哉

FW:鈴木彰容、山崎晶平、石川湧己

【控え】小西賢

【交代】山崎晶平→小西賢

【警告】無し

【ベンチ】鈴木修平,秋保盛樹,吉田和朝,猪股和浩

【評】

今年の桜は例年より一週間ほど早く、4/5頃に満開となった。週末までもつか心配だったが、寒気のおかげでまだお花見ができる風情があった。天候はと言えば、天気予報では「晴れのち曇り」だったのに開会式は「小雨」であった。

試合会場は「ひとめぼれ補助競技場グラウンド」、運営当番なので開会式が終わるとすぐに移動した。会場はいつもより人が多い。聞けば「シャニーズ」のコンサートとのこと、帰りの渋滞が思いやられた。

前年度のメンバーや16名ほど抜け、東北クラブの存続そのものに赤信号か!と危ぶまれたが、皆さんの努力のおかげで何とか存続ができる人数を登録できた。今日は、就活等で来れないメンバーもいたが、12名も集まった。メンバーとして一堂に会するのはこれが初めてで、お互いのプロペラや特徴は全く未知である。これから何試合かでチームプロペラを構築するのは毎年同じだが、これだけメンバーや違うことは珍しいと言えよう。

11:00キックオフ。試合開始早々はお互い6分程度の力で、相手の出方を見ながら試合を進め、その中で試合感覚を戻そうという感じだった。しかし、前半6分いきなり試合が動いた。見方陣内右で相手からボールを奪取した黒田は左の柴田へエリア・チャンジする。柴田は左足で、前線へ加点気味の早いボールを出す。ボールはセンターサークルを越えたてバウンドする。相手DFが3人ボールを追っていたが、ボールの落下点に寄せたのは山崎だった。ゴールまでは大分距離があった。GKは基本通り前に詰めてきた。山崎は当然それを視界に入れていたであろう。ノートラップでシュートした。ボールはGKの頭上を弧を描いてゴールネットを揺らした。このタイミングを逃したら、相手DF・GKとの間合いが変わりゴールにはならなかつたと思われる絶妙のショット・タイミングであった。なかなか見られない光景に、ちょっと静寂があつてその後歓声が上がった。1-0。

この1点は初顔合わせのチームのぎこちなさを払拭してくれた。動きが格段に良くなり、とてもお互い初めてプレーをするチームとは思えない動きになった。

15分には右からパスをつないでゴールに迫る。ショートには至らなかつたがコーナーキックを得る。コーナーキックがどれ位のスピードでどの位飛んでくるのかわからず、落下点に居れば得点できたと思える勿体ないCKであった。16分には柴田が左から切り込み、ゴールライン近くをドリブルしてセンタリング、残念ながら詰める人がいなかった。19分には石川がチャンスを作り山崎にラストパス。山崎はこれをGKの動きを見極めてゴールへ流し込んだ。2-0。

22分にはGK残間のコーナーキックが山崎へ直接渡る。山崎はこれも技ありでゴールをゲット。3-0。

28分にも得点チャンスがあったが惜しくもならなかつた。逆に29分、右からDFの連携のほころびつかれ、中央にいた選手に得点を許す。3-1。

後半、曇りから雨、強風、霰(あられ)、晴れと天気が目まぐるしく変わる。寒さもこの時期特有の体の芯から冷えるようなものであった。そんな中、試合の方は疲れもあり攻防が単調になる傾向はあったが、最後まで集中力を切らさずに初戦を飾った。各選手たちの健闘に拍手を送りたい。中でも、山崎はハットトリックで開幕戦勝利の立役者となった。「開幕から飛ばすな!」と監督に言われてはいたものの、ボールが目の前に来れば身体が自然に動いたであろう。それが3度もあって身体の方が悲鳴を上げたに違いない。前半終了間際に太腿に違和感を覚え交代した。アシストされたボールも良かったが、そのボールへの身体の寄せ、ショートのタイミング、力(りき)まないフィニッシュなど今後の試合に大きく期待したいところである。

【鈴木修平 記】

【追記】

・開会式に出席者していただいた皆さんありがとうございました。(嶺岸さん、秋保さん、吉田さん、佐々木さん、猪俣さん、鈴木(彰)さん、山崎さん、板垣さん)

・運営当番、無事終了しました。お疲れ様でした。(秋保さん、吉田さん、猪俣さん)

・新品の試合球(茂木君・金田君から贈答)使わせていただきました。

■ 2018年4月15日(日曜日) 宮城県リーグ2部 第2節 対FC SENDAI SECOND戦

試合開始:11:30 (40分ハーフ) アデイダススポーツパーク

【結果】 0-1で負け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:小西賢

DF:高橋佳亮、矢代昌彦、長谷川昂輝、上村隆道

MF:柴田健太郎、富田将嗣、板垣俊之介、黒田尚志

FW:黒崎友弘、石川湧己

【控え】

【交代】石川→八重樫英一郎(50分)、富田→山川湖南(55分)、

黒田→鈴木彰容(58分)、黒崎→白倉俊哉(65分)

【警告】柴田(5分:2)、上村(77分:2)

【ベンチ】秋保盛樹、吉田和朝、山㟢晶平、外処凌雲

【評】

前節後の確認では11名集まるかどうか不確定だったが、15名+3名で臨むことができた。先週初先発でハットトリックを演じ、「県リーグのオタニ」と、喜んでいいのか分からない呼び名の付いた山㟢は、ハムストリングを痛めて、念のため休養とした。

相手は仙台大学のチームらしいとの情報だったが、それでもバリバリの現役学生チーム。スピードとパワーは相手のほうが上回っているように見受けられた。ただし、パスをはじめとするプレー一つ一つは荒削りで、前半押し込まれる時間が続いたものの、FKでの失点場面以外は枠内へのフィニッシュもほとんどなく、守備面ではあまり危険な匂いはしなかった。

立ち上がりの5分、柴田が相手の厳しいタックルで倒されたが、笛が鳴って立ち上がる際に「肘打ち」をしたと見咎められて早速のイエローカード。ファウルもらつてカード出されるなんて、まだまだ学生プレーだ。とはいえ、気を取り直して9分には左サイドを突破してフィニッシュまで行くあたり、柴田も今後に期待。

ラインコントロールやコミュニケーションに多少の乱れがありながらも、耐えていた守備陣だったが、12分、左からの相手FKに惜しい失点。ゴールに向かう低い弾道のボールを相手選手が後方にフリック。DFも背後に付いていたものの、わずかに隙を付かれてゴールへ。今回初めてGKを任せられた小西もさすがに反応できずに先制を許してしまった。振り返ると、このFKの原因となつたファウル(微妙な判定だったが)も柴田が起因。ということで彼には次戦以降ますます期待!(前節の先取点アシストしているし)

前半は運動量豊富な相手を崩しきれず、シュート2本で終了。

後半に入ると、新メンバーアー試合目で少しずつコンビネーションもこなれてきたこともあり、徐々にペースを握りはじめる展開に。

しかし、46分、51分、60分と立て続けに相手ゴールを脅かすものの得点にはいたらず。その後は両チームとも運動量が落ち、交代カードを4枚切ったもののが好転せず、結局0-1のままタイムアップとなった。

敗れはしたものの、初出場選手も試すことができ、最小失点で終えられたことは収穫と言えよう。また、前節のサイドバックから中盤の右サイドにポジションを代えた黒田が、後半、相手DF2枚を相手に切れの良いドリブル突破を見せたことも、次戦以降に期待を持たせるものだった。

【記:吉田和朝】

■ 2018年4月22日(日曜日) 宮城県リーグ 2部 第3節 対田尻FC戦

試合開始:10:00 (40分ハーフ) アデイダス・スポーツパーク

【結果】 6-0で勝ち。

【得点者】 柴田健太郎(9分)、白倉俊哉(39分)、柴田健太郎(45分)、黒崎友弘(61分)、黒田尚志(66分)、鈴木彰容(74分)

【アシスト】 高橋佳亮(1点目)、なし(2点目)、鈴木彰容(3点目)、柴田健太郎(4点目)、なし(5点目)、なし(6点目)

【スタメン】 GK:石川湧己

DF:高橋佳亮、矢代昌彦、上村隆道、外処凌雲

MF:黒崎友弘、富田将嗣、山川湖南

FW:柴田健太郎、白倉俊哉、八重樫英一郎

【控え】 鈴木彰容、長谷川昂輝、板垣俊之介、黒田尚志

【交代】 白倉俊哉→鈴木彰容、矢代昌彦→板垣俊之介、

外処凌雲→長谷川昂輝、八重樫英一郎→黒田尚志

【警告】 無し

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、猪股和浩、児島征司

【評】

先週までは肌寒かったが、この2~3日は25度を超す暑さが続いていた。今日も夏のような暑さの中での試合となった。(後で29度とわかった)

今日は羽生結弦選手のパレードがあるので街中の混雑は必至で、会場への遅れが心配されたが集合時間の30分前には既に数名が到着していた。最終的に15名が集まった。

10:00キックオフ。相手は田尻FC、場所は先週と同じアデイダス・スポーツパークだ。東北クラブは全く新しいメンバーコンサルティング構成なので、早くチームプレーを発揮できるようになるのが焦眉の急である。

田尻FCとは過去何度か対戦しているが、立ち上がりのプレーを見ると、以前のチームとは全く違う印象を受けた。メンバーズは体も良く、スピーディーもあり、テクニックもある。初めてのメンバーズでのDFラインがうまく機能するか、不安はあった。

柴田が今日も開始早々から快足を飛ばし、相手DFを翻弄する。2分、左サイドをドリブル突破し、いきなりショートまで行き着く場面もあったが、立ち上がりはお互い無難に経過した。

9分。中盤左、相手陣内に少し入った所でクローアインを得る。クローアインはサイドバックの高橋(佳)。何でもない普通の場面だが、クローアインのボールは普通の飛距離の倍以上飛んだ。ボールはペナルティーエリアの中に落下した。相手DFは思わず飛距離に目測を誤ったのではないか。落下点には待っていたかのように柴田がいた。

柴田はGKの動きを見定め豪快にショートを決めた。1-0。

この1点で攻撃のリズムがうまく噛み合うようになった。13分には再び柴田、

15分富田、18分八重樫、ゴールに肉迫したが追加点は成らなかつた。

19分、相手にもチャンスが訪れる。カウンタ-攻撃で東北クラブのゴールエリアまで迫り着く。ゴール前の攻防でボールがGKとDFの前に転がる。GKが取れれば何も問題なかつたが、GKもDFも倒れており、GKの前にDFがいるのでGKはボールに触れなかつた。DFは当然、クリアした。しかし、倒れているためキックが弱く、相手FWの前に絶好のボールとなって転がる。2,3タッチあってゴールされる。

1点を失ったか!と思った時、副審のフラッグが上がつた。主審と副審の協議の結果判定は「オサイド」となり失点にはならなかつた。

この後、21分山川、32分柴田のCK、36分八重樫のゴール前でのクロスとチャンスは続いたが追加点にはならなかつた。しかし、前半終了間際の39分、ゴール前での攻防を白倉が制し待望の追加点を決めた。2-0。この時間帯の追加点は千金の値がある。

後半、メンバーを4名交代する。守りの要(カメ)を2名交代したことが影響したか、立ち上がりは相手が優勢に試合を進めた。しかし、10分を過ぎる頃には連携もますますのように見えた。暑い中、富田の運動量が光つた。
8分板垣、11分黒田、13分鈴木(彰)と惜しいチャンスがあつたが追加点はならなかつた。しかし後半15分、前半飛ばし過ぎたか沈黙していた柴田が目の覚めるようなドリブルで追加点をもぎ取る。3-0。

この後、相手チームは暑さのためか運動量が落ち、東北クラブの陣内に攻めた後、カウンタ-攻撃で失点を重ねることになった。21分には柴田のペナルティーエリア右外からのフリーキックを、黒崎が見事にヘディング・シュートを決め4-0と突き放す。セットプレーからの初得点だった。

25分には黒田がドリブルでGKと1対1になり、GKのファールでPKを得る。5-0。

34分には鈴木(彰)が中央突破からミドル・シュートを決める。6-0。

今日の得点は個人技に依るところが大きい。チームプレーでの得点と言っても、詰まるところ個人技が大きく寄与するので、今後も果敢に攻めてほしいものである。

収穫もあつた。特に、長距離クロスイングは今後大きな武器になろう。また、セットプレーからの得点にも味を占めてほしい。今日は、本職のGKがいないため石川がGKを受けてくれた。キック力といい、ポジショニングといい見ていて何も言つことが無かつた(それほど良かった)。

【鈴木修平 記】

■ 2018年4月29日(日曜日) 全国社会人選手権予選1回戦 対リコーサッカーストリート-東北戦
試合開始:10:00 (40分ハーフ) みやぎ生協めぐみのサッカーフィールドC

【結果】 0-2で負け。

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:残間諒

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、上村隆道、外処凌雲

MF:黒崎友弘、富田将嗣、山川湖南

FW:鈴木彰容、柴田健太郎、八重樫英一郎

【控え】 黒田尚志

【交代】 外処凌雲→黒田尚志

【警告】 八重樫英一郎、柴田健太郎

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、福地亮太、船橋富寿

【評】

先週は暑かった。今日は先週ほどでは無いにしろ、やはり暑かった。リーグ戦を3試合こなし、新しいメンバーでの連携も少しほは可能になったかと思える場面も見えるようになってきた。

今日は「全国社会人選手権」予選の1回戦。相手は、「リコーアンダストリー東北」—昨年まで県リーグの1部について優勝し、上のカテゴリーで活躍中と聞いている。自分が監督になってからはまだ対戦したことがない、全くデータの無い未知の相手と言えた。

10:00キックオフ。開始5分、終了前5分は失点は避けたい。特にトーナメントでは尚更である。しかし、開始早々2分、左サイドからオカサイド気味のパスが相手FWに渡り、いきなりGKと1対1の場面になってしまった。

これは「失点」と観念した。しかしGK残間は相手との間合いを瞬時に詰め、シュートを身体に当てて弾じき得点を無にした。危機は脱したと思った次の瞬間、ボールは近くにいた相手FWに渡りゴールを決められ0-1。

動搖しなかった、と言えば嘘になる。しかし、すぐに気を取り直した。4分には中央左から柴田が強引に切り込むもファッショナルに至らず。5分には黒崎が右から上手いフェイントでDFを抜きシュートしたがGKに阻まれる。6分、柴田が左からドリブルでDFを引き付けながら、ゴールラインまで上がりセンタリング。抜けたがGKが跳び上げて好守。

7分には左の中盤で入ローイを得ると、高橋(佳)が柴田と先週と同じパターンでチャンスを作ろうとした。柴田は狙い通り相手DFを置き去りにしてボールを得たがバウンドが合わずシュート出来なかった。

14分柴田が左から相手と競りながらゴール前までドリブルし中に折り返す。ダブルクトンにボレーシュートしたがボールはサイドネットで得点には至らず。20分柴田から鈴木(彰)に絶好のパスが出るが、相手DFにチャンスを阻まれる。25分、ゴール前で黒崎にチャンスが訪れるが相手DFの好守にシュートできず。しかしCKを得る。合えば1点というボールだったが、接触で競ろうとした2人が転倒しボールは流れる。

28分にはピンチの場面があったが、GK残間のファインプレーで追加点は許さず。

相手は流石に連携プレーに長けていた。攻撃だけでなく、守備にもそれが現れなかなか得点を許すような隙は見せなかつた。立上りの失点はあったものの、

試合内容は悪くなかった。前半は0-1で折り返す。

後半2分、また不運に見舞われる。

ゴール前のセンタリングが流れ相手MFの前にボールが転がる。相手MFはターゲットにシュートした。皆、強烈な弾丸シュートを想像した。ところがボールは地面を叩きイレギュラー・バウンドになった。GKは完全にタイミングを狂わせられ、ゴールに転がるボールを見ているしかなかった。0-2。

この後、挽回しようとする気持ちが強くなったか3分、9分とイローカードをもらう。23分には山川がゴール右ペナルティーエリア付近で見事なドリブルでDFを抜き去り、ゴールライン上からゴール前を横切る低いセンタリングを送る。誰か詰めていれば間違なく1点の場面だった。しかし、誰もいなかった。

後半は東北クラブの方が攻めていたように感じる。何度もゴールに肉迫するがゴールネットを揺らすことができなかった。26分、CKが二度ほど続く。コスモズもズードも申し分なかった。あと数秒違っていたら…と思う惜しい場面であった。

前半、後半開始早々の失点が重くのしかかり、0-2で敗退した。格上の相手ではあったが、試合内容に遜色は無かったと思うし、チャンスも結構あった。しかし、結果は0-2。2点とも運が無かったと言える失点だったが、それを跳ね返すだけの得点力が無かった。それが力の差とも言えよう。どんな試合でも不運な失点はあります。2失点はあり得ると覚悟し、それ以上の得点を心がけたい。

こういう厳しい相手との試合は、次の試合への大きな飛躍となることが多い。
次の試合が楽しみである。

【鈴木修平記】

■ 2018年5月6日(日曜日) 全国クラブチーム選手権2回戦 対クラブフュージョン戦

試合開始 9:30 (30分ハーフ) 場所:アディダススポーツパルク

【結果】 11-0で勝ち。

【得点者】 オウンゴール(1点目)、黒田尚志(2点目)、鈴木彰容(3点目)、柴田健太郎(4,5,6,7,9,11点目)、高橋佳亮(8点目)、石川湧己(10点目)

【アシスト】

【入替】 GK:残間諒

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、上村隆道、外処凌雲

MF:富田将嗣、山川湖南、黒田尚志

FW:鈴木彰容、柴田健太郎、石川湧己

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、小川修一、嶺岸優(代表)

【評】

ゴールデン・ウイークの最終日、今日は「全国クラブチーム選手権」の最初の試合で8時

集合であった。天候は暑いが先週ほどではなかった。風もありサッカーハンドと言えた。相手は県リーグの2部に上がる前の仙台リーグで何度か対戦したことがある「クラブフューレ」だ。ここ3,4年は対戦していない。

今日のメンバーリストは11人、交代はない。ゴールデン・ウイークなのでいつものことで仕方がない。しかし、相手のメンバーリストを見て驚いた。メンバーが集まらないのはこちらだけでなく相手も同じで、しかもこちらより深刻だった。

9:30、キックオフ。11人対9人で始まった。2人の差は大きい。数的優位を局地戦で活かせば、思った通りの攻撃ができるだろうとベンチは皆思った。しかし、そうはならなかつた。相手は自陣に人数を集中させ、むだな勝負はしない。ゴール前に神経を集中させて得点を阻む。7分に相手の守備の乱れからオウンゴールで1-0となるが、攻めあぐねる状況はその後も続いた。ホールの支配率は高いものの、勝負をしかけても乗ってこないし、中にセンタリングしても相手の方が数が多く弾き返され、容易にフリーキックでは打たせてもらえない。メンバーリストにもこういう状況での試合経験は無かったに違いない。前半は11分に黒田が得点し、24分に鈴木(彰)が得点するにとどまった。3-0。

後半、相手チームは明らかに前半とは異なる戦法をとってきた。前に出て少しでも攻めようという意思が伝わってきた。それが、こちらにとっては「引き金」になった。相手陣内にスローインができたため、そこを突破口にチャンスが作れるようになった。2分、石川、鈴木、柴田とテンポよくホールがつながり、最後は柴田が豪快に決めた。4-0。

3分、7分、8分と柴田は前半のもどかしさを振り切るかのように立て続けに得点を重ねた。相手も何とか一矢報いようと攻めるが、ゴール前まで到達するのは容易ではなかった。その後も東北クラブは攻撃の手を緩めない。11分にはDFの高橋(佳)が最後尾から俊足を飛ばして駆け上がり、相手DFを置き去りにして8点目。

後半の中盤は相手ゴール・キーパーのファイン・プレーでなかなか点が入らなかつた。そのファイン・プレーに東北クラブのベンチからも「ナイス・キーパー!」と何度も声がかかつたほどだ。しかし、26分には再び柴田が、27分には石川が、終了間際の29分には柴田が今日6点目のゴールを決めた。終わってみれば11-0、これまでの最多得点となつた。

相手ゴール・キーパーは今日は大忙しだった。得点を重ねられはしたが、何本の決定的ショットを防いだことか。相手チームとすれば、前半と同じ戦法をとれば失点はもうすこし少なかつたであろう。しかし、そうせずに敢えて攻めようとしたことに敬意を表したい。昨年7/9の天皇杯1回戦、対東北福祉大戦が思い出された。

【鈴木修平記】

■ 2018年5月20日(日曜日) 宮城県リーグ 2部 第4節 対マリリ松島戦
試合開始:10:00 (40分ハーフ) みやぎ生協めぐみ野サッカーフィールドC

【結果】2-2で引き分け

【得点者】矢代昌彦(1点目)、山崎晶平(2点目)

【アシスト】なし(1点目)、山川湖南(2点目)

【スタメン】GK:佐藤博一

DF:高橋佳亮、長谷川昂輝、矢代昌彦

MF:黒崎友弘、富田将嗣、山川湖南

FW:鈴木彰容、柴田健太郎、山崎晶平

【控え】小西賢、黒田尚志、白倉俊哉、外処凌雲

【交代】佐藤博一→小西賢、山崎晶平→白倉俊哉、矢代昌彦→外処凌雲、
黒崎友弘→黒田尚志

【警告】長谷川昂輝

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、小川修一、(見学)吉原直秀、川島広祐、川口将史

【評】

朝は空気がひんやりしていたが、徐々に暑くなってきて試合開始前には夏の日差しになっていた。今日の相手は「マリリ松島」、昨年は1部でプレーしていたチームだ。2013年6月の天皇杯2回戦では0-4で負けている。その時とは相手もこちらもメンバーが殆ど変わっているので、先入観なしで臨むことが肝要だ。

キーパーは前半は佐藤(博)君、後半は小西君が受けてくれた。

12:00キックオフ。相手は試合巧者、連携プレーは流石と思わせる場面が最初から続いた。長年の努力と伝統のなせる技なのか、中盤の密集地帯でも流れるようになりを繋いでいた。こちらは開幕から6戦目、毎回メンバーが違うが少しづつ連携プレーもできるようになってきた。しかし、チーム力の差は歴然で中盤はほとんど相手が制しているように見受けられた。

11分、13分とたてつづけに相手に先取点のチャンスが訪れた。失点してもおかしくない場面だったが、DFの好守で得点を許さなかった。こういう局面では、スピードと個人技で相手ディフェンスを崩すのが有効である。単発ではあるが何度もそういう場面が続き、16分にCKを得る。キッカ・柴田のボールは早い。富田がジャンプ、合ったかと見えたがわずかに逸(り)れた。

19分、右からカウンターで攻め上がる。アーリーカロのボールがゴール前を横切る。山崎が追いつき倒れこみながらも左足でシュートしたが、サイドネットだった。

31分にも柴田が中央左から突破し、中に絶好のセンタリングをするもDFに阻まれるという惜しい場面があった。相手の早いパス回しと縦への突破にDFはよく対応した。そのため体力の消耗もかなりのようだった。前半は0-0で折り返す。

後半開始1分、左から鈴木(彰)がゴール前まで一気に攻め上がり、中にセンタリングで折り返すが、惜しくもゴールにはならなかった。しかし、これが火付け役となった。開始早々なのに何度もゴールに肉薄する。そして4分、コナー・キックを得る。左からのボールは下からアップしゴール前でストンと落ちた。混戦の中、矢代が

初ゴールを押し込んだ。1-0。

更に7分、今度は右から山川が切れのいいドリブルで相手DFを翻弄し、ゴールライン際からセンタリング。これまでの試合で何度も同じ場面があったが、誰もおらず得点に至らなかった。

今日は、山崎が待っていた。落ち着いて合わせたボールはゴールネットに突き刺さった。2-0。このままの攻勢でいけば勝てるのではないか、と思ったのは事実である。しかし、そうはいかないのがサッカーである。

後半32分、左から相手FWにドリブルでゴール前まで持ち込まれ2-1となる。後半35分、36分と東北クラブに惜しいチャンスがあった後、もう残り2分を切った後半38分、中盤でパスを受けた相手FWは振り向きざまに右足でボールを強蹴した。ボールはそのまま行けばゴール右に逸れるコースだった。しかし、ボールは大きくカーブを描いてゴール右上角に吸い込まれていった。このショットは守備がどうこういう問題ではなかった。ショットした相手を讃えるべきであろう。

このような場面は滅多にあるものではないが、2失点は覚悟しておかなければならぬということを改めて思い知らされた。3得点以上欲しいのはそういう理由である。どんな試合でも、必ずチャンスはあるもののそれを決められるかどうかで明暗が分かれる。

いい試合をして、引き分けだったにも拘わらず、負けたような気分だったのはなぜだろうか？

【鈴木修平 記】

P.S 黒崎友弘君が東京に転勤となり退会することになりました。今後のご健勝とご活躍を祈念しています。

■ 2018年6月17日(日曜日) 天皇杯予選1回戦 対仙台大原学園戦

試合開始 10:30 (40分ハーフ) 場所:みやぎ生協めぐみ野サッカーフィールドA

【結果】 7-3で勝ち。

【得点者】 福地亮太(1点目)、黒田尚志(2点目)、鈴木彰容(3点目)、柴田健太郎(4点目)、山川湖南(5点目)、富田将嗣(6点目)、柴田健太郎(7点目)

【アシスト】 鈴木彰容(1点目)、高橋佳亮(3点目)、鈴木彰容(4点目)、櫻田尚大(5点目)

【スタメン】 GK:小西賢

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、櫻田尚大、

MF:富田将嗣、山川湖南、黒田尚志

FW:鈴木彰容、柴田健太郎、八重樫英一郎、福地亮太

【控え】 白倉俊哉

【交代】 福地亮太→白倉俊哉

【警告】 長谷川昂輝

【バンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、猪俣和浩

【評】

前の試合から約1か月が空いての「天皇杯予選1回戦」である。今年はほぼ例年どおりに梅雨入りしたようで、先週は仙台特有の「寒い」天候が続いた。今日は幸い陽も差し、寒くはない。サッカーにはちょうど良い天気と思われた。

今日の相手は「仙台大原学園」、ここ何年か天皇杯にエントリーしているのは見聞きしていたが、対戦するのはこれが初めてである。選手の中でも対戦したことのある人はいないようで、試合の中で相手を知るしかなかった。場所は、めぐみ野サッカーフィールドA(通称「県A」)グラウンドだ。

10:30キックオフ。お互い初めての相手なので、小手調べから始まるだろうと踏んでいた。また今日初めての選手が2名いるので、早く試合に慣れて力を発揮してくれればという想いもあった。

そんな想いとは裏腹に開始2分、いきなり試合が動いた。相手がまだ立上りでピードに慣れない所を鈴木(彰)が右から素晴らしいドリブルで相手陣内に切り込む。あれよあれよと思う間にゴール前まで迫り、マイクの早いセンタリング。

これに合わせたのは、今日初出場の福地だった。周りに相手DFが何人もいる中で、ダイレクトで合わせたボールは、ゴールキーパーの反応を上回って容赦なくゴールネットを揺さぶった。1-0。

これで勢いに乗った東北クラブは、中盤で相手のパスをカットし攻撃につなげた。4分、柴田が左からピード・ドリブルで競り上がり絶好のセンタリングを上げた。しかし、中央にはまだ詰めの選手が到達していなかった。惜しい場面であった。

9分、相手DFがクリアしたボールがペナルティーエリアからセンター・サークル方面に転がる。これを黒田が右足で強蹴。一閃、ボールは低い弾道でゴール左に突き刺さった。「オーッ!」という歓声が響く見事なシュートだった。2-0。

14分、DF高橋(佳)が左でボールをコントロールする。前方を見てタミングを計ってボールを前線に送る。これを受けたのは鈴木(彰)、相手の動きを完全に見極めたような動きでシュート。これも素晴らしいシュートであった。3-0。

22分、鈴木(彰)が右からドリブルで切り込む。今日絶好調の鈴木(彰)には「向かうところ敵なし」の感があった。ラストパスは柴田に、柴田はゴール右前で得意の左足に持ち替えてシュート。ボールは狙い通り内側にかづしてゴールイン。4-0。

30分には今日DFで初出場の櫻田が、試合に慣れてきたか攻撃にも参加するようになった。もう少しで得点という惜しい場面があった。チャンスは続く。柴田が放ったシュートは「入った!」と誰もが思ったが、ゴールに当たり、振り返ったGKの胸に収る不運があった。37分にも追加点を逃す場面があった。

後半、4-0はひっくり返すには厳しい得点差であり、相手がどう出てくるか心配な面もあった。相手は3人の警告者を出したことからも少し荒れ気味になる傾向はあった。しかし、攻撃の主導権は概ね我々の方にあった。

後半6分、櫻田の絶妙のパスを受けた山川は、シュートには少し遠いかと思えるペナルティーエリア外で強蹴。鋭い振りから放たれたボールは相手DFに当たりコースが変わ

る。しかし、スピードは落ちない。ボールは、一瞬でゴール右上隅に吸い込まれていった。5-0。

5点差はサッカーでは安全な状況と言える。皆そう思ったに違いない。しかし、休みなく攻め続けたために疲れも出てきたか、後半18分、22分、24分と失点する。こうなると、嫌なムードになるものである。しかし、これを富田が振り払ってくれた。後半33分、ゴール前の混戦を富田が制した。6-3。これで勝負あった。後半37分には柴田が珍しいヒールキックで決め、スピードだけでなく小技もできることを示した。7-3。

今日の試合は少々「大味」になった嫌いはあるが、得点のしかたに見るべきものがあったと思う。パスはもちろん大切だが、最後はどこで1対1で勝負するかである。それが今日は良く出来ていたと思う。さらに、外から相手を崩すのは得点に有効だということは皆知っているはずである。自分達より強い相手にもこれは有効である。今後もこれを多用したい。

もう一つ、ミドル・シュート、ロング・シュートは相手が守りに入った時に有効である。中にいくらボーラーを入れても決まらないことは十分体験済みだと思う。遠くからシュートすることによりディフェンスラインを上げざるを得なくなり、結果としてそこにパスが生まれる可能性が大きい。

相手チームも毎年メンバーが代わり、チームとして機能させるのに時間がかかっているのではないかと思った。我々もそうだが、4月から既に7試合を消化した。1戦毎にチームとして確実に上達していると実感できる。次回のトーナメントもいい試合を期待したい。

【鈴木修平記】

■ 2018年7月15日(日曜日) 全国クラブチーム選手権準々決勝 対六郷クラブ戦

試合開始 11:00 (30分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカーフィールドC

【結果】 1-2で負け。

【得点者】 山崎晶平

【アシスト】 柴田健太郎

【スタメン】 GK:石川湧己

DF:柴田健太郎、黒田尚志、長谷川昂輝、櫻田尚大

MF:鈴木彰容、山川湖南、八重樫英一郎

FW:山崎晶平

【控え】 なし

【交代】 なし

【警告】 山川(33分、2つ)、柴田(58分、繰り返し)

【ベンチ】 秋保盛樹、吉田和朝

【評】

写真でもお分かりのように、なんとこの日は「9人!」で臨むことに。相手は一つ上のガーリー、県リーグ1部ながら、今シーズンは不調で最下位に沈む状況。

勝つチャンスは十分にあったと思われ、この試合を含めて2勝すれば、東北大戸出場と1アスタでの決勝戦が約束されるという、チームにとっては「試合歴を残す」という意味では重要なんですが…。

30分ハーフとはいえ、30度超えの気象条件では、9-11はあまりにも不利だというのが試合前の見立て。しかも、相手は交代枠いっぱいの18名を登録。救いは引き分け即PK戦というレギュレーションか。

試合が始まると、案の定、相手は3バックもどんどんラインを上げてくる。コンパクトにして数的優位を生かそうという戦術は定石です。

ところが、序盤は相手のルーズな縦パスや細かいミスに助けられ、ほとんど決定的なピッチはなく進みます。逆に、6分にはカウンターから柴田が快足を飛ばし、ドリブルで持ち込んで強烈なファイショット。相手GKがかろうじてはじいたこぼれ球を、山崎がしっかり捉えたもののゴールに嫌われます。

8分には、CKからの山川のドリブルシュートも、ミートしきれずGKがキャッチ。それでも相手はラインを(なれば不用意に)上げてかさにかかるとする。

12分、柴田のワンタップからカウンターがはまり(というか相手DFのリスク管理失敗?)、ハーフタイムから飛び出した山崎が抜け出してGKと1対1に。これを冷静に決めて見せた山崎。貴重な先取点が生まれた。思わず形で先制された相手は、それでも前半は攻めあぐむ。

19分、ゴール正面20mの相手FKもゴールを脅かすには至らず、21分にはラフプレーで相手10番が警告を受ける。ここまででは完璧なこちらのペースで進んだ。

ハーフタイム。ベンチに戻ってきた選手たちは、思いのほか消耗していた。「相手をいなしてリードした前半」という余裕はなく、さすがに2人のビハインドは大きいのだ。引き続く曇天のみが味方か。

後半、さすがに相手はやりかたを変えてきた。単純にラインを上げるだけではなく、後方でボールを回しながら、サイドチャンジでこちらを揺さぶった後、手薄になったギャップを突いてバイタルエリアに迫るという、数的不利なこちらには嫌なペースを取り始めた。

中盤で突っかけた山川が、後方からのタックルでイエローカードをもらったのは相手のシレオ通りだったかもしれない。それでも、微妙なコントロームисや判断の誤りから決定機を作られずにいたが、44分のCKからの流れで、ついに同点に追いつかれてしまう。ゴール前でニアにあわされてしまい失点したが、ハーフタイムで、セットプレーの守り方に迷いがあったこちらの隙をついた相手を褒めるべきかも知れない。

こうなってしまうと、数少ないカウンターに活路を求めるこちらか、じわじわと攻め寄せる相手か、堪える時間の長短が勝敗を左右することになる。

49分、こちらが堪え切れなかった。右から強引に持ち込まれたボールを、はつきりとしたクリアで終わらせることができなかった、まさに隙について、相手が強烈なショットを決めてきた。急増GKの石川に対応しろというのが酷なファイショット

だった。

この後、何度かカウンタ-からチャンスを迎えることになるものの、ワントップの山崎もすでに足を使い果たし、サイドの柴田・櫻田、中盤の山川・鈴木も、単独ドリブルで突破するパワーは残っていなかった。

焦りも出て58分には繰り返しのファoulで柴田が警告を受けたのは、すでに反撃の矢を失ったこちらを象徴するようなシーンであった。

「9人でよくやった」というべきか、「大事な時に9人かよ」というべきか(笑)。まあ、これもチームの力なのだと認めざるを得ない。リーグ戦、頑張りましょう!

(記:吉田)

■ 2018年7月22日(日曜日) 県リーグ 第5節 対Kemono in 楓木戦

試合開始 14:00 (40分ハーフ) 場所:みやぎ生協めぐみ野サッカー場C

【結果】 0-2で負け。

【得点者】なし

【アシスト】なし

【タクソ】 GK:残間諭

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、上村隆道

MF:富田将嗣、板垣俊之介、山川湖南、櫻田尚大

FW:鈴木彰容、八重樫英一郎、福地亮太

【控え】 柴田健太郎

【交代】 板垣俊之介→柴田健太郎

【警告】 柴田健太郎

【バンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、猪俣和浩

【評】

7月に入り連日「異常な暑さ」「命にかかる危険な暑さ」というニュースが流れる毎日だが、仙台も天気予報では今日は今年最高の暑さになると言っていた。今日の対戦相手は「KEMONO in 楓木」、現在2部リーグで2位を走っている。対する東北ケルバは今日は12名が集まった。

14:00キックオフ。お互い、この猛烈な暑さを考えてプレーしようと思っているはずだが、ボールが来るとつい反射的に反応してしまう。

前半11分、センターサークル辺りから相手DFの裏へハイパスが鈴木(彰)に渡る。鈴木(彰)は得意のドリブルで相手DFを翻弄し切り返す。少しボールが離れたかかと危ぶんだがそれも良い結果となり、中央にフリーで上がって来た櫻田にラスト・パスを送る。櫻田は狙いすましてダイレクトでサイド・キックした。ゴール・シーンが脳裏をよぎる。しかし、蹴る前に人工芝でバウンドが変わったか(?)ダヤストミートしなかった。ボールはゴールを大きく外れバンチからは「アヘン」というため息が漏れた。

後半7分、縦パスに福地が反応したがDFに阻まれる。

その直後の8分、左から右に大きく振られ、サイドを割られ、お手本のよう

なゴールを決められる。0-1。

不本意な失点に暑いながらも士気は上がる。10分、何度かの攻めでCKを得る。キッカ-柴田の早いボールはGKの頭上を越える。突っ込んできたのは富田、ほぼジャストミートだったがゴールにはならなかった。コンマ何秒か遅ければ…という惜しいハーディングだった。

攻勢が続いていた13分、カウンターで1点目と同じように左から右に大きく振られ、きれいに中央に戻されて決められる。0-2。

こういう極限の暑さになると、考えてプレーするという状況ではなく、無意識に近いプレーが多くなるようである。いつも同じメニューでチームプレーを磨き上げているチームは、こういう時それが活きてくるのではないかと思える。一方、毎回メニューが違う、フォーメーションも違う我々のようなチームは、攻めも守りも意識的にやらなければ機能しない。今日はそういうところの差が垣間見えた気がする。

東北ケンブリッジは押されつ放しと言う訳ではなく、むしろ、チャンスは多かったよう感じた。しかし、ゴールに嫌われ同点への道のりは遠かった。

後半22分、この暑い中でもピッチを全く落とさずに走り続けた八重樫に、チャンスが巡ってくる。相手ペナルティエリア附近で、相手DFがハーディングでGKへ返したボールに、俊足で入りボールを奪った。当然GKと1対1になった。しかし、ゴールライン近くに迫っていたため、角度が殆どなかった。シュートするもGKに当たりゴールにならなかった。

後半23分、後半から満を持して登場した柴田は精力的に動いた。得意のドリブルで相手を外し左足から強烈なミドル・シュートを放つ。ボールはゴール・バーが揺れるほど強烈だったが、惜しくもゴールにはならなかった。

今日の3試合では、すべて前・後半20分に「クリシングブレイク」(※1)が設けられた。少しあは足しにならんだろうか? 今日は運営当番ということもあり、ずっとグラウンドにいて異常に「暑い」とは感じていたが、帰宅して仙台の最高気温がほぼ37度だったことを知り「さもありなん」と納得した。仙台の夏は昔は28度位だったと記憶しているが、近年これから外れることが多くなったような気がする。今日は、具合が悪くなったり選手がいなかったので本当に幸いだった。今後も安全を第一に、怪我の無いように配慮していくかなければならないと考えています。朝から運営当番を手伝ってくれた八重樫君に感謝です。

【鈴木修平記】

(※1) https://www.soccer-king.jp/news/japan/japan_other/20160411/429892.html

■2018年9月2日(日曜日) 県リーグ 第6節 対南小泉ケンブリッジ戦

試合開始 10:00 (40分ハーフ) 場所:松島フットボールセンター2

【結果】2-3で負け。

【得点者】富田将嗣(1点目)、黒田尚之(2点目)

【アシスト】 櫻田尚大(1点目)

【タクソ】 GK:秋保盛樹(前半)→白倉(後半)

DF:長谷川昂輝、矢代昌彦、櫻田尚大

MF:富田将嗣、板垣俊之介、白倉俊哉(前半)→秋保(後半)、黒田尚之

FW:八重樫英一郎、福地亮太、柴田健太郎

【控え】なし

【交代】なし

【警告】 黒田尚志、長谷川昂輝

【ベンチ】 鈴木修平、吉田和朝、鈴木彰容、外館篤

【評】

約1か月の間を空けてのリーグ戦再開である。

現在5戦して2勝2敗1分け、異常な暑さの夏も峠を越し、これからの中内にも期待がもてる。

今日の相手は「南小泉クラブ」、場所は松島フットボールセンター第2グラントだ。

10:00のキックオフに合わせ、8:30の集合だ。ここに8:30に着くには家を7時に出ないと間に合わない。それにもかかわらず、定刻にはほとんどのメンバーが集まっていた。しかし、今日は11名集まるものの、GKがいないことと、1名は怪我で出られないかも知れないという。だが会場には来るというので、それならばGKを頼もうと安易に思っていた。

しかし、出られないことがわかり試合開始5分前、急遽秋保さんにお願いした。秋保さんは黙って引き受けてくれた。

10:00、キックオフ。開始早々はお互い様子見がお決まりであり、今日もいつものようにボールが流れる。徐々にペースが上がり、一進一退の攻防が何度も続く。GK秋保さんはと見れば、ゴールティーリアの外にいる。「出すぎでは…」とベンチで心配する声と同時に相手MFからDFの頭を越すパスが出た。GK秋保は余裕でボールに到達し、蹴り出した。普通のポジションだったら1失点という場面であった。

東北クラブはサイドから、中央からとチャンスを作るが、決定的な所までには至らない。前半6分、相手FWが左サイドからDFと競りながら上がってくる。ゴールエリアに入った辺りでDFより一瞬早くタッチしてシュート。ボールは低く角度の無いコースでゴール左サイドネットを揺らした。0-1。

こちらも攻めるが、ゴールに至らない。もどかしさが募る。そして前半17分、0-2。

前半18分、CKを得る。ヘディングに期待がかかるが、そうそう決まるものではない。惜しい場面にベンチからため息が漏れる。

前半21分、FKを得る。絶好の位置だったがバーを越える。

しかし前半25分、右サイドから櫻田がドリブルで相手陣内を切り崩し、センタリング。ゴールエリア辺りで待っていたのは富田。狙いすましてゴール右隅にボールを突き刺す。ようやく相手ゴールをこじ開け1-2とした。

この後、何分間かは流れが東北クラブに来た感があった。ここで得点できれば結果も変わったかもしれないが、そうそうこちらに都合良く行くものではなかった。

後半、相手の動きが落ちることを期待したが、相手は若手を補充したこともあり最後まで落ちなかつた。こちらも前半でミキを使い過ぎ、後半は動きが鈍くなり、何度かピッチを作ることとなつた。

後半33分、こちらのCKで惜しい場面の直後、相手のクリア・ボールが最前線のFWに渡り、独走され1-3と突き放される。

しかし、その直後の後半34分、黒田が左中盤から中に切れ込み、右足を強蹴。低空弾道のミドルシュートは相手GKの動きの逆を突きゴール左隅に吸い込まれた。これで2-3。

もう1点…と期待したが、相手も必死に守り2-3でタイムアップとなつた。

今日の試合は今後のことを考えると勝っておきたかった。結果は2-3。人数が揃っていれば勝てない試合ではなかつたと思う。メンバーが足りなければ、少しでも不利にならぬようにスタッフが入ることもあるが、如何せん年齢が年齢である。今後もこういう状況が続くのであれば、チームの存続そのものを考え方直さなければならないかも知れない。

サッカーができるチームがあり、試合ができる、それも「芝生」で。そういう環境が無くならないように、優先度を上げて出席してもらいたい。

鈴木修平.記

■ 2018年9月16日(日曜日) 県リーグ 第7節 対七郷クラブ 戦

試合開始 14:00 (40分ハーフ) 場所:みやぎ生協めぐみ野サッカーフィールド

【結果】2-0で勝ち。

【得点者】柴田健太郎(1点目)、柴田健太郎(2点目)

【アシスト】富田将嗣(1点目),板垣俊之介(2点目)

【スタメン】GK:鈴木彰容(前半)→外館篤(後半)

DF:長谷川昂輝、富田将嗣、外処凌雲

MF:山川湖南、板垣俊之介、柴田健太郎、福地亮太

FW:外館篤(前半)→鈴木彰容(後半)、八重樫英一郎、秋保盛樹

【控え】なし

【交代】なし

【警告】八重樫英一郎

【ベンチ】鈴木修平、吉田和朝、(児島征司)

【評】

前回(9/2)の時点では、5名しか集まれないと聞いていたが、皆の努力で10名まで増えた。しかし1名足りない。本職のGKも今日は来れないので、それも考慮しないといけない。最終的に、第1試合の副審を務めてくれた秋保さんに無

理を承知でお願いして何とか11人で試合に臨むことができた。

今日の相手は「七郷クラブ」、場所は「めぐみ野サッカーフィールド」だ。相手チームもメンバーが集まらなかつたり、毎年年齢が上がって往年のプレーに翳りが出てきたりと我々と同じように課題を抱えていると聞いている。

14:00キックオフ。陰れば涼しいが、直射日光の所は暑い。お昼頃少し陰ったが、後は殆ど快晴だった。相手もいきなり飛ばしては来ない。できる限り多くボールを回し、調子を上げようとしているように見えた。こちらも毎回違うメンバーなので、同じようにボールを回し攻撃のリズムを作ろうとしていた。そして本職ではないGKのために、できるだけ攻撃の時間を多くし、早く得点して優位に立とうと意識で皆プレーしていた(と思う)。

前半4分、俊足八重樫の前に後ろから絶妙のビンディングスがかかる。相手がまだピードに慣れていないこともありDF2人の間を抜けてGKと1対1になる。八重樫の初得点に期待がかかったが、相手GKの好守に阻まれる。

前半7分、中盤のボールの取り合いで、秋保さんが相手プレーからボールを奪取。ベンチの近くであったこともあり「ナイスプレー」の声がかかった。

前半11分、左タッチライン沿いから相手DFをぶっちぎって上がった柴田がセンタリング。俊足の八重樫が突っこむもボールはそれよりも早く合わず抜けて行った。相手との一進一退の攻防が続く。

そして前半30分、相手ボールをカットした畠田が中央をトリブルで上がる。相手MFを何人か引き付けておいて左に開いていた柴田にラストパス。大好きなコースにパスを貰った柴田はゴールまで一直線にトリブルする。GKが防ごうと出てきたところを強蹴。ボールは弾丸うけでゴールネットに突き刺さった。待望の、しかも豪快なシュートにベンチもプレーも沸いた。 1-0。

後半、GKを鈴木(彰)から外館(トダテ)に替える。鈴木(彰)は前回肉離れで出場できなかった。今回、いきなり走って再発しては困るのでGKで様子を見るにした。どうも「走れそうな気がする」というので替えた。外館は今回が初出場である。身体を慣らすためにある程度準備はしてきていても、実際の試合となると別である。今日はFWのトップを担っていたため、体力の消耗が激しそうだったので交代した。2人ともGKは初めてだったようだが、見ていて安心感があった。

後半3分、柴田に1点目と同じ場面が訪れる。柴田のシュートは地を這うような早く正確なものだったが、相手GKは素晴らしい反応で止めた。残念だったが、これはGKを讃えるべきである。

後半立ち上がりから、東北クラブのボール支配率が多かったように見えた。この期間にもう1得点ほしいところだ。そんな期待に応えてか、後半10分、中盤の攻防から板垣が巧みなボール・テクニックで抜け出し、センターサークル付近で何人かいた相手DFの背後にスルーパス。そこには柴田が走りこんでいた。柴田は先ほどのGKの好守を頭に入れてシュートしたのだろう。ワンテンポずらした、低くて速いシュートはG

Kの好守を無にして、またしてもゴール右隅に突き刺さった。 2-0。

このあと後半12分、山川が素晴らしい足技とスピードでペナルティ・エリア内まで切り込みDFを翻弄し、中に折り返すもゴールにはならなかった。更にCKを得る。キッカーは柴田、ボールは狙い通り富田に。飛び込んだジャンプ・ヘッドはジャストミートしたが、わずかゴール・バーを越した。惜しかった。

相手も、ボールを奪取した後、カウンターで攻撃する場面が何度もあったが、MF/DFがよく走り、それを防いだ。そしてタイムアップのホイッスル。久々の「勝ち」にメンバーもベンチも声が弾んだ。

今日の試合で、相手アーリヤーが中盤からサイドにボールを振った時の「寄せ方」が気になった。ボールを捌く前に「寄せ」れば、奪いやすくなるだろう。捌いた後に「寄せ」れば、次のアーリヤーへの余裕を与えてしまうだろう。これで中に切り込まれて「危ない！」と感じた場面が少なからずあった。捌く前に「寄せ」れば、未然にピঁちも防げ、攻撃につなげられる。そして試合を楽に進める…と行きたいものである。

今日は、一人一人の気魄がアーリヤーに感じられた。技術的なことももちろん大事だが、「気持ち」はさらに結果を大きく左右するのであろう。

そして、副審の後にもかかわらず、フル・タブで出場してくれた秋保さんの活躍がなかったら、今日の結果は違ったものになったのではないかと思う。ありがとうございました。しかし、このような起用は問題であることも重々自覚しています。

鈴木修平.記

■ 2018年9月23日(日曜日) 県リーグ 第8節 対マリル松島戦

試合開始 13:40 (40分ハーフ) 場所:七ヶ浜サッカースタジアム

【結果】1-2で負け。

【得点者】 櫻田尚大

【アシスト】 柴田健太郎

【スタメン】 GK:櫻田尚大(前半)→山川湖南(後半)

DF:富田将嗣、外処凌雲、矢代昌彦

MF:山川湖南、柴田健太郎、黒田尚之

FW:鈴木彰容、山崎晶平、石川湧己

【控え】 白倉俊哉、福地亮太、八重樫英一郎

【交代】 外処凌雲→白倉俊哉、石川湧己→福地亮太、鈴木彰容→八重樫英一郎

【警告】 柴田健太郎

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

前日の雨から一転して快晴の秋日和、メンバーも14名が集まり久々に士気も上がる。今日の相手はマリル松島、場所は七ヶ浜サッカースタジアムだ。スタジアム会場で

は、地元の小学生・中学生の大会があり、観客もおり賑わっていた。

13:00キックオフなので11:30には運営当番が来ているはずなのに見えないし、県リーグ関係者の姿も無い。心配になってグランドにいた大会の関係者と思しき人物に確認に行ったところ、13:00からは県リーグで使うことになっていると聞き安心したが、12:00を過ぎてもグランドを使ってはいたのでいつもと違う流れに違和感を覚えた。

この後、13:00からの主審が時間を間違え、来れないという事態が発生した。仙北においてとても間に合わないので別の審判を探すことになったようだ。しかし、13:00キックオフには到底間に合わず30~40分遅れでできるかどうかという運びとなった。代わりの主審が到着して試合が開始したのは13:40頃であつた。運営当番の方の尽力に感謝したい。

開始が遅れたためと練習のし過ぎと暑さのためか、始めは比較的スローで流れた。前回、終了間際に同点とされ引き分けにもかかわらず負けたような気分になったことが記憶に残る。

15分を過ぎた辺りからお互い徐々にピードを上げ、ゴールのチャンスを作ろうとする。当然、当たりも激しく厳しくなる。相手チームは、後方でボールを回し対角線のサイドに大きくボールを振り、快足FWが足技で突破してゴール前で勝負、という攻めを得意としていた。これに対し、東北クラブは中盤からサイドに開いて、外からDFを崩し中へ上げて山崎で勝負という形を描いていた。

前半19分、右から石川がこの形を作りゴールライン近くまで切り込んでセンタリング、ゴール前には3人のDFに囲まれた山崎がいたがコントロールされたボールは山崎にピントで合った。高い打点でジャンプ・ヘディングしたボールはゴールへ…「入ったか!?」と皆期待したが、ゴールバーをわずかに越した。太陽とボールが丁度重なり、会心のヘディングにならなかったそうだ。

更に24分、左から縦にいいパスが出る。これを鈴木(彰)がトリブルでゴール前まで持ち込む。センタリングするがDFにクリアされる。そのこぼれ球に山川が素早く反応するが、シュートまで行けず。

27分には相手DFの前線へのパスコースを鈴木(彰)が切る。DFはMFへパスをつなぐ。そのパスを山崎は見逃さなかった。インタセプトしたボールを左に一度開き、中に入れる。そのボールをもらった山崎はシュートしようとするができず、もう一度外へ出す。これをゴールラインまで持ち込みセンタリング。これにピタリと合ってヘディングしたが若干弱かった。

30分には中盤でボールをコントロールしていた山川が、縦に鋭いスルーパスを出した。DFの間を突破してきたのは黒田、持ち前のピードで一瞬にしてDFを置き去りにした。低いシュートで左隅を狙ったが惜しくも外れた。37分にはCKを得、ゴール前でもつれる。ボールはゴールしたかと思われたが、GKへのファールのオイナルが一瞬早かった。惜しい場面が何度もあったが得点には結びつかなかった。

後半に入るとお互い動きが激しくなる。後半8分、何度目かのCKを得る。

キッカは柴田。左足からのビード・ボールはゴール前で大きくかづして入ってきた。GKはボールのビードが速く、出るに出られない。このボールにゴールポストぎりぎりに飛び込んできたのは櫻田だった。ボールは勢いよくゴールネットに突き刺さった。1-0。これで東北クラブのペースになりその後攻勢が続く。

しかし後半16分頃、黒田が足を痛める。これで攻守のバランスが崩れたか、一気に相手の攻勢が強まる。何とかピッチを救おうとバックラインまで戻った柴田は、思わず力が入り「警告」をもらってしまう。

相手の攻勢は続き、こちらのピッチが続いた。DF、MF、FWが懸命に凌いでいたが、33分同点に追いつかれ1-1。

後半36分、八重樫が中盤中央付近から相手のこぼれ球を強蹴。地を這うような弾丸ショットを放つが、わずかに左にそれる。こういう時、決まると流れが大きく変わらるのだがそうはうまくいくものではない。

相手の押せ押せムードの中、時間も80分を回って秒読み状態になり、このまま引き分けてくれれば…と思い始めた。しかし終了のホイッスルがなかなかならない。

と、相手FWにカウンターのパスが通った。ペナルティーエリア付近でDF3人に囲まれながらも上手い動きでDFの逆を突き一気にリードになる。GKはどうすることもできなかった。2-1。タイムアップ寸前の失点でこのカドを落とした。

後で考えれば、アディショナル・タイムが3分以上あった訳だが、途中の停止時間を考えれば当然だった。それに気が付かないほど辽くなっていたということだ。さらにハーフタイムで一気に3人交代させたため、黒田の故障に対処できなかった。一人は残しておくべきだったかと後悔した。そして根本的な問題は、本職のGKを確保できていないことだと改めて痛感した。 鈴木修平.記

■2018年9月30日(日曜日) 県リーグ2部第9節 対FC Sendai2戦

試合開始 14:00 (40分ハーフ) 場所:松島フィットボールセンター2

【結果】1-1で引き分け。

【得点者】石川湧己

【アシスト】板垣俊之介

【スタメン】GK:黒田尚志

DF:富田将嗣、長谷川昂輝、上村隆道、山川湖南

MF:板垣俊之介、小西賢、石川湧己、八重樫英一郎

FW:残間諒

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【バンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

「台風24号、日本を直撃・縦断!」メディアの見出しが前日から踊っていた。日本列島の真ん中をなぞるよう進んでいた。航空各社は欠航を早々と決め、新幹線も西日本で運休を発表していた。

夜半に通過する予定の宮城県だったが、大型台風ならではの大雨警報が出でていた。大雨の中での試合は避けられないと覚悟した。

10:00からの副審を申し出てくれた富田君を朝早くピックアップし松島ファットホールセンターに向かう。天気予報通り、次第に雨が強くなつていった。しかし、到着した9時頃雨は止んでいた。そしてこの後試合が終わる16時頃まで小雨はぱらついたものの大雨にはならなかつた。

相手はFC.Sendai2。仙台大学の2~3軍のチームと聞いている。今年昇格し、これまで10戦10勝0敗、負けなしである。10試合で得点51、失点3、1試合平均5点というチームだ。これまで他チームが負けないための秘策を練り、身をもつて試してきたが、最終的にどこも成果を上げていない。

今日は「内定式」などの諸事情のため、メンバーは10人である。GKは本職の残間がいたが、黒田が前節の試合で足を痛めまだ不安ということで黒田とした。フォーメーションは、4:4:1ということで皆と意見が一致した。

14:00キックオフ。相手チームは最初からトップ・スピードで回してきた。長身の大型FWをセンターにして、左右から突破して中央で勝負するという、いつもの形が垣間見えた。この型でこれまで多くの得点を重ねてきている。1人少ない10人で何失点するだろうか?正直そう思わずにはいられなかつた。

前半5分、0-0。

10分、まだ0-0。

相手はいつもの鋭い攻撃に変わりはないが、こちらもDFは富田・長谷川の2枚CBに、左右は上村と山川という布陣。皆1対1の勝負でもスピードでも負けていないし、抜かれてもそれを予測して別の選手が補い決定的な場面を作らせなかつた。空中戦でも一回り大きいFW相手に一步も引けを取らなかつた。緊迫した試合展開が続く。

15分、相手の早いパスを板垣が鋭いダッシュでインターフェット、1~2タッチで右にいた石川に早く長いパス。石川の前には当然DFがいる。石川は1タップで相手DFの横に、相手DFはシュートさせまいと足を延ばす。 \wedge ナルティーエリアの前だったのでゴールまではだいぶ距離があったが、石川は躊躇せずシュートした。石川には体からは想像できないキック力がある。ボールはゴール左隅に一直線に飛んで行った。GKはセービングし手が触ったようだが、重く早いボールはそれを無にしてゴールに吸い込まれていった。プロレーヤーからもベンチからも大歓声が上がつた。絵に描いたようなカウンターアクション攻撃だった。得点した石川はもちろんだが、ここ3試合、キラー・パスでアシストしている板垣のプレーも光つた。

黒田はGKは初めてなのに何度もナイフ・プレーを見せてくれた。普通のチームより格段に速いボールを、しかも雨に濡れて滑るにもかかわらず安定したボール捌き

を見せた。俊足で詰めて来る相手に本能的に反応し危ない場面を未然に防いだ。前半は1-0で終了したが、後半に入ると失点は時間の問題と思うのが普通の感覚である。

しかし、相手はチャンスを作るものの中々得点できない。中盤を圧倒的に支配しているにもかかわらず、決定的になるであろう最後のところで突き放せなかつた。ここで抜かれたら決定的なピンチになるだろうと思われる1対1の場面で選手たちが負けなかつたことは大きい。

そういう状況に業を煮やしたか、後半17分、相手は一気にレギュラーと思しき3人を交代してきた。タッチラインギリギリまで開いてボールをもらう両ウイングは、その思惑通り東北ケンブリッジDFをおびき寄せては突破し、ゴールライン近くまで切り込んで中へ低いセンタリングを折り返す。何度も繰り返してきた。現役の学生なので体力があるのは当然だが、交代したばかりの選手なので尚更だった。そして、彼らの攻撃が実を結ぶ時がやって来る。

後半20分、右サイドから東北ケンブリッジDFを破り、中央へ低く強いボールをセンタリングで折り返す。左から全速力で詰めてきたFWがサイド・キックで合わせる。DFも反応したが、一瞬相手が優った。ボールは目にも止まらぬスピードでゴール右隅に突き刺さつた。これぞ「仙台大」というゴールだった。

これで完全に仙台大ペースになる。東北ケンブリッジは防戦一方になり、失点の追加は時間の問題かと思われた。しかし、相手の動きをよく見て惑わされず最後の所で負けない勝負強い場面が10分、15分と続く。気が付けばもう残り5分。入庫アは1-1のままだ。

「ゴールかい!?」という場面は何度かあったが、選手達の集中力は最後まで切れなかつた。そして遂に終了のホイッスルがなつた。

1-1の引き分けだったが、気分は「勝ち」だ。相手にとっては受け入れがたい「引き分け」だったのではないか? 全勝のチームが10人のチームに引き分けたのだから。

鈴木修平.記

■ 2018年10月14日(日曜日) 県リーグ2部第10節 対田尻FC戦

試合開始 12:00 (40分ハーフ) 場所:めぐみのサッカーフィールド

【結果】 0-4で負け。

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:外館篤(前半)→小西賢(後半)

DF:長谷川昂輝、上村隆道、外処凌雲

MF:富田将嗣、板垣俊之介、小西賢、山川湖南

FW:白倉俊哉、柴田健太郎、石川湧己

【控え】 八重樫英一郎

【交代】 白倉俊哉→八重樫英一郎

【警 告】柴田健太郎、板垣俊之介

【バンチ】鈴木修平、秋保盛樹、小川修一

【評】

12時キックオフ。

普通どのチームも最初の5分間は体をグラントに慣れさせることもあり、いきなりトップスピードでは来ないものだが、今日の田尻FCは気合が入って最初からギア全開のようであった。

前半6分、相手がコーナーキックを得る。蹴ったボールは速く、しかも飛び込んできた選手にコスガピッタリ合っている。思わず「危ない!」という声が出かかった。

春に戦った時とはスピード・テクニック・パスでアーチリツリツにおいて明らかに違っていた。

11分、白倉がエリア内で絶好のパスをもらう。これは決まったか!と思ったがDFの足に当たり不発。12分、相手FWが置みかけるようにゴールに迫る。強烈なシュートを放つ。GK外館のナイフプレーに救われる。19分、相手が再三再四しかけてくる、右からの俊足FWが突破する攻撃が実を結ぶ。強烈なシュートはGKの反応を許さなかった。0-1。

28分、柴田がペナルティ・エリア右付近から左足で豪快なシュートを放つ。大きくカーブした先にゴールがあつたが逸れた。

後半開始早々2分、板垣にシュートチャンスが訪れた。決まってもおかしくない場面だったが、ゴールに嫌われる。6分、ドリブルー山川が左から相手を切り崩してシュート。絶好の場面だったが相手の反応が勝った。8分、自陣のDFの連携の歯車がちょっと狂ったところを突かれる。あわや「失点!」という場面だったが事なきを得る。12分、相手がCKを得る。回数を重ねる毎に精度が上がっている。要注意だ!DFも集中してマークしていたが一瞬、空きパスに走りこまれ0-2。

17分には富田、18分には八重樫、19分にはまた富田がシュートまでいくものの相手ゴールをこじ開けることはできなかつた。逆に27分、28分と同じ形でサブを突破され、中に折り返したボールにダイレクトで合わせられ0-4と突き放される。

34分には石川が右から巧みなドリブルで混戦を抜け出しセンタリングするもゴールにはならない。直後の35分には八重樫がキラーパスを受け相手DFを一瞬で抜き去り、GKと対峙する。自分の動く方にGKをおびき寄せ、ボールを反対側に流す。皆「これは入った!」と思つただろう。しかし無情にもボールはゴールポストをわずかに逸れていった。そしてオイカル。0-4の完敗だ。

前半は押されてはいるものの五分の戦いではなかつたかと思う。しかし、後半になつても疲れを見せないパワフルな相手は両サイドからDFラインを突破し、ゴール前に早く低いセンタリングを上げ、ダイレクトに合わせる。一番効果的な攻めである。こちらも局地戦ではいいプレーを見せるものの、途中のパスミスで最終局面まで行かなかつた。

例年だと、9月以降は最終局面までつながる連携プレーが結構できていたようと思うが、今年はそれがうまく行かない。毎回違うメンバーであることも大きな要因だが、「意思の疎通」言い換えれば「ゴールまでの同じイメージ」が同じで無いからではないのだろうか? 個人の技術レベルがそんなに遜色があるとは思えない。しかし、大事なところでつながらない。ここが大きな弱点になっているようだ。

他のチームは、練習でそれを培っている。さらに選手の入れ替えも穏やかなのでチームの連携プレーもいきなり大きく崩れることは無いであろう。我々にはそれが無い。ただ、これまで現役の学生だった時に一緒にプレーをしたりした、同じ釜の飯を食った先輩・後輩だったのでうまくいってきましたのではないのだろうか?

今年は、バックボーンの違う人達に入ってくれてもらってチームを組んだ。たかだか10試合で、連係プレーなどできるものではないというのが真理かも知れない。さらに、新しく入ってくれた人達には、これまでのメンバーに対する「遠慮」もあったのではないか? 「俺が!俺が!」というプレーは度を超すと困ったことになるのだが、今の東北クラブに一番必要なスピリットに思える。

鈴木修平.記

■ 2018年10月31日 訃報

東北クラブを長年監督として率いてこられ、現在、チームの代表を務めていただいておりました、嶺岸優さんが、2018年10月31日早朝、永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

■ 2018年11月4日(日曜日) 県リーグ第11節 対南小泉クラブ戦

試合開始 10:00 (40分ハーフ) 場所:みやぎ生協めぐみ野サッカーフィールド

【結果】3-1で勝ち。

【得点者】柴田健太郎(1点目)、柴田健太郎(2点目)、柴田健太郎(3点目)

【アシスト】石川湧己(1点目)、なし(2点目)、八重樫英一郎(3点目)

【スタメン】GK:残間諒

DF:佐藤博一、長谷川昂輝、上村隆道、山川湖南

MF:板垣俊之介、富田将嗣、黒田尚志

FW:鈴木彰容、石川湧己、柴田健太郎

【控え】小西賢、白倉俊哉、福地亮太、八重樫英一郎、外館篤

【交代】板垣俊之介→小西賢、鈴木彰容→八重樫英一郎

【警告】富田将嗣、佐藤博一

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【評】

前半2分、富田がゴールまでのJ-スイッチが空いたと見るや、迷わずシュート。相手にかすらなかったら入ったかもしれない幸先の良いシュートを放つ。

4分、相手も幸運の連鎖でゴール前までつながり、ゴール前でフリーでシュートされる。「あわや!ゴールか?」と肝を冷やした場面があった。

6分、柴田が中央から左サイドを中に入ってきた鈴木(彰)へ絶妙のパス。得意のドリブルでゴール前まで持ち込んでシュートしたが惜しくも切れる。

13分、黒田が右のサイドからセンタ付近を相手DFと走った石川にロング・パスを通す。石川は上手いトラップとドリブルで相手DFを外へ誘い出し、走り込んできた柴田へストップス。柴田は、GKまでの間合いを見極め、左隅へボールを流す。皆の気持ちを乗せたボールは、狙い通りGKの脇をすり抜け、ゴールネットを揺らした。選手からも、ベンチからも大歓声が上がった。大歓声の理由を、相手チームは知らなかっただろう。1-0。

18分にはパルティエリア付近から強烈なミドルシュートが飛ぶ。残間のナイスセーブが無かったら入っていたであろう。攻勢に転じた相手は何回か立て続けにチャンスを迎える。そして21分、同点に追く。1-1。

両チームとも今日は来季を決める大一番であった。相手も東北クラブに勝てば残留が見えてくるので、気合はいつもの比ではない。当然気合は入り、プレーは激しくなる。同点になったことでそれが加速した。前半で体力を使い果たしそうな動きで球際を競った。次の1点をどちらが取るかで勝敗が大きく左右するだろうことは、誰の目にも明らかだった。チームを見れば相手が一枚上手のように思えた。しかしこちらにはそれを上回る気力があった。

26分、左からゴール前にセンタリングが上がる。相手DFはヘディングでクリアしたがボールは後ろに、飛び出してきていたGKはゴールへ急いで戻ろうとした。ゴール前に飛んできたボールを相手DFと柴田が競り合う。競り勝ったボールは戻ろうとしたGKの逆方向へ飛んだ。ボールはゴール左隅のネットを揺らした。大きな追加点だった。2-1。

後半も、この張り詰めた状態が続いた。1点を返せば逆転につながるかもしれない相手チーム、1点を追加できれば大きく勝利に近づく東北クラブ。年に15試合近くある試合だが、このような気の抜けない緊張する試合は少ない。

今日の試合は、二つの意味でいつもと違う特別な試合だった。

今日の相手「南小泉クラブ」にもし負けると、下から2番目となり入れ替え戦となる公算が大だった。ただでさえ人が集まらないのに、年末年始になるであろう入れ替え戦となれば、メンバ不足で降格も現実となることが予想された。もう一つは、創立当初から34年の長きにわたり「トピックラブ」を育て、守ってくれた代表の「嶺岸優」さんが10/31に皆の祈りも虚しく亡くなり、今日11/4が葬儀と重なってしまったのだ。嶺岸さんのためにもどうしても「勝たないといけない」試合だった。

選手達もその想いは同じで、試合内容は最初から張り詰めた緊迫した試合内容となつた。プレー一つ一つにそれが感じられた。相手の早いカウンター攻撃に

も全速力で追いつき、決定的な場面を作らせなかつた。そして、少しでも隙があれば得点を狙うという意識が全員に浸透していた。

後半23分、中盤での攻防で相手が縦の突破を狙つたパスを柴田がカットした。それを黒田、石川、上村とつないで右サイドから突破していく。ペナルティエリア前で再びボールをもらった石川はドリブルでゴールを狙いながらキープする。そして飛び込んできた八重樫にラスト・パスを出した。八重樫はシュートしたかったが、相手のマークがきつくできなかつた。八重樫はくるりと反転し、シュート練習のような絶妙のズボンのホールドを戻した。そのホールドを叩いたのは柴田、振りぬいた左足から放たれたボールは弾丸ライ - となってゴール左上隅に突き刺さつた。あまりの速さに弾道は見えず、バンチでも入ったのかどうかわからず、しばらく「シン」となつていたほどだ。今日2得点の柴田はこれでハットトリックとなつた。重苦しい雰囲気の中でよくぞ決めてくれたと思う。

これで勝負はついた。最後まで集中力を切らさずにいい試合をしてくれた選手たちと、バンチと一緒に戦ってくれた選手たちに敬意を表したい。

鈴木修平.記

2018年11月25日(日曜日) 天皇杯2回戦 対FC SENDAI戦

試合開始 13:00 (40分ハーフ) 場所:ひとめぼれスタジアム補助競技場

【結果】 0-11で負け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【GK】 GK:福地亮太

DF:佐藤博一、富田将嗣、上村隆道、山川湖南

MF:白倉俊哉、黒田尚志、八重樫英一郎、石川湧己

FW:外館篤

【控え】 なし

【交代】 なし

【警告】 なし

【バンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

11月後半に入り、急に寒くなり半袖のユニフォームはそぐわない季節になつてゐた。今日は天皇杯予選の2回戦、場所は「ひとめぼれ補助競技場グランド」である。いつもならば7月には決着している「天皇杯予選」だが、今年は国立競技場がリニューアルのために作り直すので変則的なスケジュールになつたと聞いている。相手は「FC SENDAI」、4年前の2014年の4月に同じ天皇杯の1回戦で当たつてゐる。その時は0-6の完敗であった。

70分前にユニフォームの色を決めるマッチ・ミーティングがあつた。相手チームは「緑・緑・緑」を希望してきた。県リーグでは「トンペイカラブ」は「緑・緑・緑」と認識してもらつてい

るので「白・白・白」は滅多に着ることがない。しかし、トーナメントではそれがある。こちらも「緑・緑・緑」を希望したため、コイン・トスによって決めることになった。監督になって8年、初めてのことだった。

コイン・トスは、表・裏を対戦チームに割り当て、トスして出た模様のチームが希望の色を選べる。トントンイケラバは「表」が割り当たった。コインがトスされる。一瞬、「負けたら…」という思いがよぎるが、振り払った。出た模様は…「表」だった。もし、「裏」だったら試合はどうなったのだろうか？

今日のメンバーは10人、そして本職のゴールキーパー(GK)がいない。メンバー表を書くのがこんなに難しいと思ったことはない。最初、GKは黒田を考えた。しかし、練習で福地が足の甲の不安を感じたため、急遽彼をGKとした。フォーメーションは4:4:1しかなかった。

13:00キックオフ。これまで、人数が11人揃わなくとも、なんとか試合はできだし、弟分のチームであるFC SENDAI2とは10人で1-1の引き分けだった。今回も勝てないまでも、そんな試合ができるらしいと思っていた。しかし、今日の相手はそういう試合をさせてくれなかつた。こちらがボールを持つと、2人以上で囲み、激しく当たり、振り向かせない。それを何とか振り切っても、次にパスを出す相手にも2人以上で詰めているので、パスは当然のようにカットされる。相手は、ボールを奪うとすぐ横につなぎ、左右のサイドであいている方に早いロングパスで振ってくる。そのボールは早く・正確であった。サイドでそれを受けたフレーヤーはすぐに数的優位状況を作り、ゴールまで突破してくる。ゴール前に折返し、強烈なシュートで締めくくる。この連続であった。局所の場面で勝っても最後はボールを奪われ、このパターンに引きずり込まれる。人数が少ないとろに数的優位を組織的にやられると、もうどうしようもなかつた。前半0-7。後半0-4。0-11で終了した。

後半、気力でボールをつなぎ、最後は上村が右からセンタリングし、外館がフリーでヘディングする絶好の機会があったが惜しくも得点にはならなかつた。

相手は、現役の学生で体力・気力・フィジカルは我々以上であることは言うまでもない。組織的な連携プレーも訓練されている。個人・個人を見れば、相手と互角にやれる選手もいたであろう。しかし、それが組織的なサッカーの勝負となると我々のやり方では手に負えない相手だったと言える。本来であれば、今日で今シーズンは終わりのはずであった。

しかし、11/11の県リーグ最終試合が会場の都合で延期になり、12/2が最終の試合となつた。最後にもう1試合できることに感謝して、思い残すことのないようにいい試合で今年度を締めくくりたい。

【鈴木修平.記】



2018年12月2日(日曜日) 県リーグ第12節 対KEMONO in 楢木戦

試合開始 10:00 (40分ハーフ) 場所:ひとめぼれスタジアム補助競技場

【結果】 0-0で引き分け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:小西賢

DF:佐藤博一、富田将嗣、上村隆道、長谷川昂輝

MF:白倉俊哉、黒田尚志、外館篤

FW:石川湧己、山寄晶平、柴田健太郎

【控え】 板垣俊之介、櫻田尚大、矢代昌彦

【交代】 白倉俊哉→板垣俊之介、外館篤→櫻田尚大、長谷川昂輝→矢代昌彦

【警告】 富田将嗣

【バンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、梅田芳樹、山寄莎奈

【評】

例年11月下旬に初雪が降るの常であるが、今年はまだである。おかげで、まだタイヤ交換をしなくても大丈夫な様である。天気も流石にバンチコートが無いと寒いのだが、太陽があると暖かさも感じられた。

今日は県リーグの最終節、相手は「KEMONO in 楢木」だ。今シーズン最後の試合で、選手によっては大学最後の試合になることもあり14名が集まった。場所は先週と同じひとめぼれスタジアム補助競技場である。

10:00キックオフ。立ち上がり2分、中盤の混戦から山寄が久々の試合間隔を感じさせない動きで、アーリーコンのボールをペナルティエリア付近に入れた。スピードに乗ってこれを受けたのは柴田、ワンダウンドを胸トライアングルのままシュートしたがDFにぶつかりボールはゴールを外れた。続けて3分、中盤右のローライを佐藤(博)、中央の富田、

左の柴田へとつなぐ。柴田は右にいた山㟢へ大きく長いボールを振る。山㟢はDFを引き付けておいてヘディングで中央に折り返す。そこへ走りこんだのは白倉、タイミングよくダブルでシュートしたがジャストミートせず外れる。4分には柴田が中盤からドリブル突破で相手DFを引き付け、中にセンタリング。最終的に白倉がヘディングするがゴールならず。7分には柴田のCK(左-ナ-キック)を、佐藤(博)が絶好の位置でヘディングするも惜しくも外れる。21分には左サイドのスロ-インから繋いだボールがパルティ角にいた長谷川へ流れる。長谷川は狙いすましてシュートしたが枠を捉えることができなかった。いつもCB(センターバック)で相手に気力で競り勝ってきた長谷川だが、こういう場面は初めてだったに違いない。慣れていないとなかなか思うように蹴れるものではない。その後も、24分石川のドリブルから長谷川に、28分には柴田がロングシュート、33分には山㟢がミドルシュートと攻撃の手を休めることは無かったが1点を奪うことができなかった。後半も東北ケニアの攻勢は続く。

後半開始早々1分、黒田にチャンスがあったがゴールには至らず。3分、ゴール前の混戦で入ってもおかしくない場面が何度かあったが相手GKの好守に阻まれる。その直後のCKでは、矢代にタイミングがあったがヘディングはゴールに嫌われる。13分山㟢がゴール前でボールを確保、一人で粘るもシュート出来ず。15分、カウンターから早いパスをつないでゴール前まで迫るが相手に阻まれる。18分、中盤で相手ボールをカットし、柴田へボールが出る。柴田は快足を飛ばしてゴールラインへ一直線、右からセンタリングするが中のFWとタイミングがほんの少し合わなかった。27分、櫻田が右から何回めかの突破を成功させる。突破してセンタリングするのだが、中には相手DFの壁が立ちはだかる。もう少しのところが崩せなかった。

先週の厳しい試合の余韻もあっただろう、選手の動きは軽快だった。フィジカルな面では定評があり、失点も11試合で12点と守りに強い相手チームだが、東北ケニアの方はそれを上回る攻撃だった。相手は、攻撃の主力2名を欠いていたためかいつもよりは攻撃に精彩を欠いていたように見えた。しかし、1点が奪えなかった。0-0の引き分けで最終戦を終えた。

P.S 梅田芳樹君は長谷川昂輝君の紹介で見学に来てくれました。来年、加入してくれることを期待しています。

山㟢莎奈さんは山㟢君の奥さんです。（秋に挙式されたそうです）

今季のリーグ戦は12戦4勝5敗3分け、得点20、失点17で7チーム中4位で終えることができました。4月の開幕から、終わってみればあっという間でした。参加してくれた選手の皆さん、スタッフの皆さん、応援してくれた皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。
【鈴木修平記】



2018-09-16(日) 七郷クラブ戦



2018-11-04(日) 南小泉クラブ戦

第41回 宮城県サッカーリーグ2部個人成績表 得点ランキング アシストランキング

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	大隅弦(楢木)	11
2	今野大輔(仙台)	10
3	渡邊瑠惟(仙台)	9
4	柴田健太郎(東北)	7
4	太田善貴(楢木)	7
6	本郷裕人(松島)	6
6	加賀大夢(仙台)	6
8	平良木元(楢木)	5
8	及川凌二(田尻)	5
8	今野大輝(南小泉)	5
11	山㟢晶平(東北)	4
12	畠勝史(七郷)	3
12	菅原彰太(仙台)	3
12	村上和也(田尻)	3
12	大箱将紹(七郷)	3
12	高橋武己(松島)	3
12	白鳥拓也(田尻)	3
12	才ウンゴール	3
12	後藤良太(松島)	3
12	中川利樹(仙台)	3
21	青沼正敏(田尻)	2
21	菊池篤(楢木)	2
21	伊藤拓未(松島)	2
21	黒田尚志(東北)	2
21	三浦継士(仙台)	2
21	中村升(南小泉)	2
21	岩佐憲佑(南小泉)	2
21	菅原祐太朗(楢木)	2
21	遊佐史彦(松島)	2
21	及川翔(七郷)	2
21	上野進夢(仙台)	2
21	竜澤穂(仙台)	2
21	及川竜二(田尻)	2
21	佐々木凜河(仙台)	2
21	工藤学(南小泉)	2
21	西野智哉(仙台)	2
21	秋山浩季(楢木)	2
21	藤澤恵太(仙台)	2
21	檜崎友裕(松島)	1
39	田原大敬(南小泉)	1
39	富田将嗣(東北)	1
39	石崎正樹(田尻)	1
39	白倉俊哉(東北)	1
39	秦野諒也(仙台)	1
39	菊地伸也(松島)	1
39	鈴木形容(東北)	1
39	中野友和(田尻)	1
39	阿部航平(南小泉)	1
39	櫻田尚大(東北)	1
39	鈴木大輝(仙台)	1
39	石川湧己(東北)	1
39	佐々木大輝(田尻)	1
39	佐々木隆(松島)	1
39	佐々木啓祐(楢木)	1
39	黒崎友弘(東北)	1
39	永井童輝(松島)	1
39	小林智哉(南小泉)	1
#N/A		
39	矢代昌彦(東北)	1
39	千葉詠太仙台)	1
39	布田健吾(仙台)	1
39	上野中也(仙台)	1
39	岩館玲央(仙台)	1
39	中侯徹(楢木)	1
39	丹野海人(松島)	1

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	渡邊瑠惟(仙台)	5
1	平良木元(楢木)	5
3	竜澤穂(仙台)	4
3	千葉詠太仙台)	4
3	本郷裕人(松島)	4
3	日下裕太(楢木)	4
3	迫井優人(仙台)	4
8	今野大輔(仙台)	3
8	白鳥拓也(田尻)	3
8	村山良太(楢木)	3
8	加賀大夢(仙台)	3
8	村上和也(田尻)	3
8	柴田健太郎(東北)	3
8	今岡宏太(仙台)	3
15	菅野純太朗(楢木)	2
15	佐々木啓祐(楢木)	2
15	荒木童也(松島)	2
15	熊谷雄平(七郷)	2
15	鎌田健太(田尻)	2
15	阿部航平(南小泉)	2
15	秋山浩季(楢木)	2
15	大隅弦(楢木)	2
15	三浦継士(仙台)	2
15	中川利樹(仙台)	2
15	板垣俊之介(東北)	2
15	菅原彰太(仙台)	2
15	石川湧己(東北)	2
15	佐々木凜河(仙台)	2
29	佐々木大輝(田尻)	1
29	櫻田尚大(東北)	1
29	今野大輝(南小泉)	1
29	鈴木大輝(仙台)	1
29	中村升(南小泉)	1
29	兼平純孝(七郷)	1
29	後藤良太(松島)	1
29	曳地史宏(楢木)	1
29	鈴木形容(東北)	1
29	岩佐憲佑(南小泉)	1
29	武藤裕也(田尻)	1
29	高橋暁(七郷)	1
29	山川湖南(東北)	1
29	高橋幸大(七郷)	1
29	松元好誠(松島)	1
29	狩野将(田尻)	1
29	高橋佳亮(東北)	1
29	残間諒(東北)	1
29	上野進夢(仙台)	1
29	秦野諒也(仙台)	1
29	鈴木琢矢(南小泉)	1
29	村山純平(楢木)	1
29	瀬上益己(田尻)	1
29	久保田晋二(仙台)	1
29	日野拓巳(七郷)	1
29	游佐史彦(松島)	1
29	富田将嗣(東北)	1
29	荒木隼也(松島)	1
29	及川凌二(田尻)	1
29	加茂翼(七郷)	1

2018年メンバー一覧



鈴木修平



秋保盛樹



吉田和朝



佐々木元樹



猪俣浩



小川修一



残間諒



小西 賢



佐藤博一



鈴木彰容



黒崎友弘



富田将嗣



長谷川昂輝



白倉俊哉



山㟢晶平



板垣俊之介



高橋佳亮



柴田健太郎



石川湧己



黒田尚志



矢代昌彦



山川湖南



上村隆道



八重櫻英一郎



外丸凌雲



福地亮太



櫻田尚大



外館 輯



会長 小川譲次



代表 嶺岸優
(10/31逝去)



2018-08-11(土) 北大定期戦

2019年3月9日 初版発行

製作者 鈴木修平
発行所 東北(トンペイ)クラブ
〒981-0944
仙台市青葉区子平町11-12
電話 022-273-5114